

WTT ユースコンテNDERバンコク 2024



主催 (公財) 全国高体連卓球専門部

1. 大会名 WTT ユースコンテNDERバンコク 2024
2. 大会派遣期日 男子：令和6年9月7日（土）～12日（木）
※集合9月7日(土)9：45関西国際空港国際線出発ロビー
（前泊者9月6日(金)17：00関西エアポートワシントンホテル集合）
女子：令和6年9月11日（水）～16日（月）
※集合9月11日(水)9：45関西国際空港国際線出発ロビー
（前泊者9月10日(火)17：00関西エアポートワシントンホテル集合）
3. 会場 「Fashion Island,Island Hall 3rd Floor」
587,589,589/7-9 Ramintra Rd.Kannayao,Bangkok,Thailand 10230
4. 宿泊先 「The Grand Four Wings Convention Hotel」 Tel +660 2378 8000
5. 日程（男子）

試合記録

◎男子シングルス U-19

・予選リーグ

小野 泰和（出雲北陵）	3－0	Is Sarawut THANANANPONG（タイ）
	3－0	Ahmed AKHYAR（モルディブ）

2勝 1位通過

菅沼 翔太（愛工大名電）	3－0	KIM Kang Hyun（韓国）
	3－0	Kevin BRUNZELL（スウェーデン）

2勝 1位通過

石山 浩貴（上宮）	3－0	Lukas GJORLING（スウェーデン）
	3－0	WONG Yi Cheng（シンガポール）

2勝 1位通過

坂田 陽哉（遊学館）	3－0	邱鈞霆（中国香港）
	3－2	LEE Seongmin（韓国）

2勝1敗

・決勝トーナメント

1 回戦

小野 泰和	3－0	黄家而（中国香港）
菅沼 翔太	3－1	LEE Seongmin（韓国）
石山 浩貴	3－0	羅嘉傑（中国香港）
坂田 陽哉	3－0	KIM Kanghyun（韓国）

2 回戦

小野 泰和	3－1	CHAO Po Yu（チャイニーズタイペイ）
菅沼 翔太	3－2	蘇昱綸（チャイニーズタイペイ）
石山 浩貴	1－3	KWON Hyuk（韓国）
坂田 陽哉	0－3	徐絃家（チャイニーズタイペイ）

準々決勝

小野 泰和	2－3	GIL Minseok（韓国）
菅沼 翔太	1－3	崔志煜（韓国）

小野泰和（出雲北陵）、菅沼 翔太（愛工大名電） ベスト8

◎女子シングルス U-17

・予選リーグ

石川 実鈴（土佐女子）	3－2	YU ZHENG Cheah（マレーシア）
	3－0	Sinethmi WIDANELAGE（スリランカ）
	3－0	EU Kei Yi（シンガポール）

3勝 1位通過

小野 蒼彩（進徳女子）	3－0	LEE Eng Kee（シンガポール）
	3－0	Senudi PATABENDI（スリランカ）
	3－0	金珉舒（韓国）

3勝 1位通過

・決勝トーナメント

1回戦

石川 実鈴	3－0	KIM Gyurin（韓国）
小野 蒼彩	3－0	CHONG Zi Sian（シンガポール）

2回戦

石川 実鈴	3－1	CHOI Seoyeon（韓国）
小野 蒼彩	1－3	JEONG Yein（韓国）

準々決勝

石川 実鈴	0－3	金珉舒（韓国）
石川 実鈴（土佐女子）	ベスト8	

◎女子シングルス U-19

・予選リーグ

山岸 唯菜（新潟産大附）	3－2	LEE Eng Kee（シンガポール）
	0－3	JEONG Yein（韓国）

1勝1敗 2位通過

石川 実鈴（土佐女子）	3－2	LEE Chaeyoon（韓国）
	1－3	Wirakarn TAYAPITAK（タイ）

1勝1敗 2位通過

兼吉 優花（四天王寺）	3－0	Sanaya BUDDHADASA（オーストラリア）
	3－0	Warachaya CHATCHAIUDOMSUK（タイ）
	3－1	LIM Jing Shuen（マレーシア）

3勝 1位通過

小野 蒼彩（進徳女子）	3－0	Sinethmi WIDANELAGE（スリランカ）
	3－2	Khemisarar DERUJIJAROEN（タイ）
	3－2	Fathimath ALI（モルディブ）

3勝 1位通過

・決勝トーナメント

1 回戦

山岸 唯菜	3 - 1	Khemisarar DERUJIJAROEN (タイ)
小野 蒼彩	3 - 1	Natsima DIKAENG (タイ)
石川 実鈴	3 - 1	Supamas PANKHAOYOH (タイ)

2 回戦

兼吉 優花	3 - 1	KIM Minseo (韓国)
山岸 唯菜	3 - 2	蘇籽童 (中国香港)
小野 蒼彩	3 - 1	麦明芯 (中国香港)
石川 実鈴	1 - 3	KIM Yeseo (韓国)

準々決勝

兼吉 優花	3 - 0	LOW Yu Xuan (マレーシア)
山岸 唯菜	3 - 0	KIM Yeseo (韓国)
小野 蒼彩	2 - 3	CHOI Seoyeon (韓国)

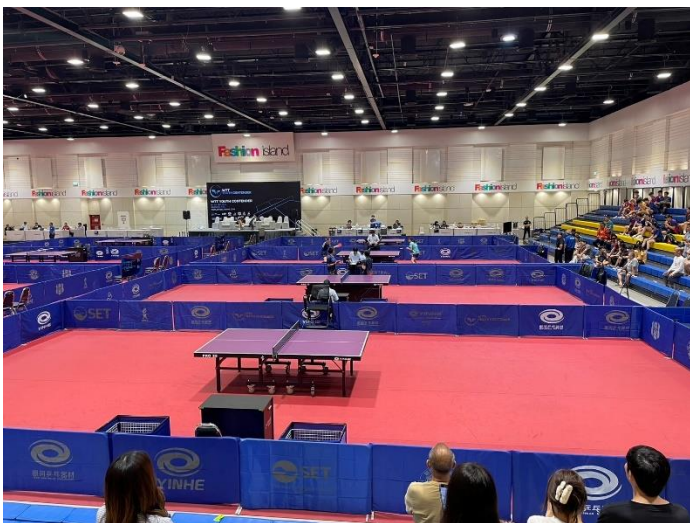
準決勝

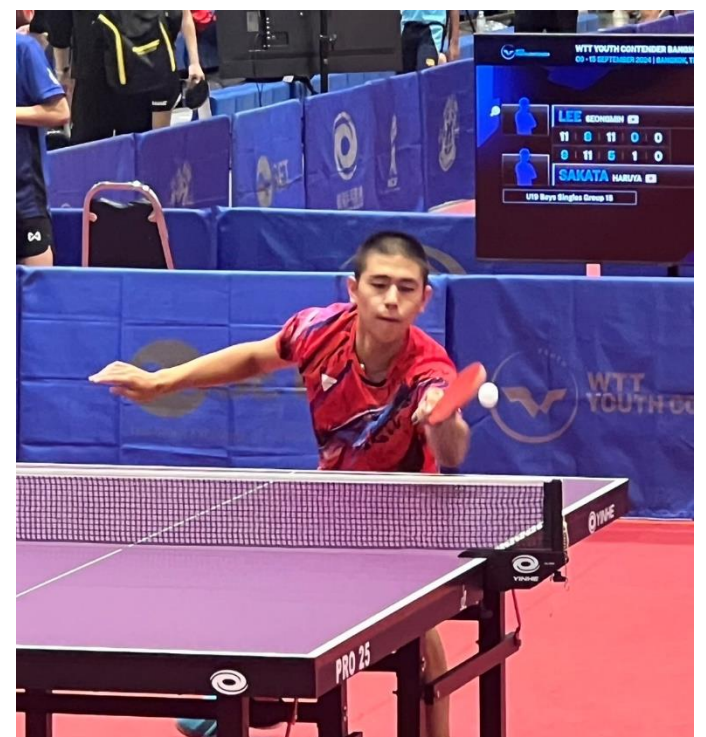
兼吉 優花	3 - 0	山岸 唯菜
-------	-------	-------

決勝

兼吉 優花	3 - 0	CHOI Seoyeon (韓国)
兼吉 優花 (四天王寺) 優勝	山岸 唯菜 (新潟産大附) 3 位	

大会スナップ





団長 （公財）全国高体連卓球専門部理事 長 宗片 信一

今回のタイ大会は、昨年度に続き2回目の参加となりました。そのため、知識が乏しく不安を抱えて臨んだ昨年とは違い、気持ちに少し余裕が生まれ、いろいろな場面で予想を立てながら進めることができたと思います。また、事前に現地の方々とコンタクトを取っていたため、意思疎通が図れていたこともあり、日本チームをスムーズに受け入れていただき、スタッフの対応も大変好意的なものでした。今後もタイでの大会参加においては、友好的かつ協力的に遂行されるものと期待しています。

さて、昨年度は女子からスタートした当大会ですが、今回は男子からのスタートとなりました。参加国については男女ともに中国が不参加となった一方で、韓国チームが大勢参加していたため興味を惹かれました。韓国からは多くのジュニア選手が派遣されており、それに伴い若手のコーチもスタッフとして多数同行していました。この状況から韓国チームは特にジュニアを強化し、育成に力を注いでいることが伺えました。

日本チームの戦績については、男子は順調に予選リーグを勝ち上がり、決勝トーナメントに進みましたが、残念ながらベスト4には届きませんでした。女子に関しては、U19で四天王寺高校の兼吉選手と新潟産業大学付属高校の山岸選手がベスト4に進みました。そして、兼吉選手はトータルで2ゲームを落とすだけで、圧倒的な強さを見せ優勝することができました。感情を表に出さず抜群の安定感で相手に付け入るスキを与えない試合運びだったと思います。改めてカット型の選手の重要性を確認できた大会となりました。全体を通して感じたことは、国同士の情報が伝わりやすいためか各国とも練習システムが似ており、独自性がないように思いました。このような状況下で勝ち続けるためには、新たな視点に立ち、これまでと違う技術指導やコーチングが必要だと感じました。

最後になりますが、今回WTT ユースコンテNDERバンコク（タイ） 2024に団長として参加させていただいたことに大変感謝しております。また、2年続けて女子シングルの優勝に立ち会えたことは大きな喜びであり、今後の指導においても重要な位置づけとなりました。大会参加に際し手続き等をしていただいた公益財団法人日本卓球協会の皆様や昨年度に引き続きタイで通訳や日本選手団を献身的にサポートしてくださったワンさん、ビックさんには深く感謝申し上げます。重ねてその他多くの方々からサポートいただきましたことにこの場をお借りして厚く御礼申し上げる次第です。この遠征で経験したことを今後の事業に活かせるよう尽力したいと思います。

男子監督 遊学館高等学校 植木 大

タイへの国際大会は、今回で4回目となりました。相変わらず湿度が高くムシムシとした環境の中での試合となりました。この大会は、試合会場がショッピングモールの中で行われます。施設の中は日本企業が多数入っており困ることがほとんどありません。宿泊施設もトレーニングジムなどがあり、試合がない日はトレーニングを行うことが出来るので、ストレスが少ない大会です。

試合ですが、全員が予選リーグを1位通過することが出来ましたが、小野君・菅沼君がベスト8、石山君・坂田君がベスト16という結果となりました。小野君は優勝した韓国選手に善戦しましたが、ラリー力とパワーの部分で差が出てしまいました。他の選手も、終盤のポイントをどのようにして自分のものにするかが、今後の課題になるかと思います。より質の高い技術や戦術を母体に帰って練習して欲しいです。4名は大学に進学し卓球を続けると聞いています。国際大会での経験を活かし新しいステージでの活躍を期待します。

最後に、団長として帯同していただいた宗片先生、色々なサポートをしていただき有り難うございました。また、事務的な準備をいただきました日本卓球協会や小林先生、全国高体連卓球専門部に感謝し報告とさせていただきます。ありがとうございました。

2024年9月9日から15日まで、タイのバンコクで開催されました「WTT ユースコンテNDERバンコク 2024」に女子監督として参加させていただき、誠にありがとうございました。団長の宗片信一先生（全国高体連卓球専門部理事長）、小林明史先生（全国高体連卓球専門部強化海外遠征担当）、植木大先生（男子監督）をはじめ、大会参加にあたり関係者の皆様には、多大なるご支援とご指導を賜り、心から感謝申し上げます。この貴重な経験を振り返り、下記のとおりご報告申し上げます。

まず、今大会特筆すべきことは、U19 女子シングルスにて、兼吉優花選手（四天王寺高校）が国際大会初出場ながら、見事優勝を成し遂げたことです。兼吉選手は、予選リーグから決勝まで順調に勝ち進み、決勝では韓国の CHOI Seoyeon 選手をストレートで下しました。日本の選手は、他国の選手に比べてサーブの回転量やレシーブの安定感に優れ、これらを生かして優位にラリーを展開し、多くのポイントを獲得し勝利しました。特に、兼吉選手の巧みなサーブから多彩な攻守を繰り出す展開は相手を翻弄し、勝利に結びつけました。一方、他国選手の特長として、長身の体格を活かした選手やラリー戦での粘りに強みを持つ選手が多いことが印象的でした。また東南アジア特有の高温多湿な気候が影響し、ネットミスが多く見られたものの、前述のように、日本選手団はサーブ・レシーブで相手を崩し優位にゲームを展開できたことに日本の相対的な強さを感じることができました。

選手全員が国際大会初出場にも関わらず、会場がショッピングモール内にあり、日本食レストランも充実していたため、食事の面では不自由なく過ごせました。また途中、手首を痛めた選手が出てしまいましたが、モール内のドラッグストア・スポーツショップにてテーピング・コールドスプレー等を調達することができました。このように、不測の事態もありましたが、日本選手団の通訳を担当して下さったワンさん・ダイさんにはその都度お力をお借りし的確に対応することができ、それぞれの選手が母校でご指導を賜った実力をそれぞれ存分に発揮できたことと思います。この海外遠征で学んだことを今後の人生に必ず活かしていってほしいと願っています。

最後に、選手がこの様な貴重な経験ができたことは、全国高体連卓球専門部の先生方にご尽力を頂き、母校の先生、保護者の皆様のご理解があってこそのことです。今回の海外遠征を支えてくださったすべての皆様に、改めて深く感謝を申し上げます。今後の日本選手団【兼吉優花（四天王寺高校）・小野蒼彩（進徳女子高校）・石川実鈴（土佐女子高校）・山岸唯菜（新潟産業大学付属高校）】のご活躍と、全国高体連卓球専門部の益々のご発展を心より祈念し、WTT ユースコンテNDERバンコク 2024 のご報告とお礼のご挨拶とさせていただきます。

出雲北陵高等学校 3年 小野 泰和

この度はWTT ユースコンテNDERに参加させてもらい、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。結果はベスト8で自分にとっては決して満足のいく結果ではありませんでした。負けた試合に関しては1、2セット目を簡単に落としてしまったことが一番の敗因だと思います。ずっと同じ戦い方をして2セットを落としてしまったことがもったいなかったと思います。試合の前半はいろんなサーブやレシーブを試し、そこからいい戦術を選んでいくことが大切だと思いました。しかし、すぐにやることを変えすぎるのもよくないと感じました。ストップをして失点すると相手は次長いボールを待ちやすくなるので、そこで簡単にやることを変えるのは安易だと思いました。日々の練習からそういった駆け引きを意識した質の高い練習を心がけていきたいと思いました。また、台上の精度を更に高めていかないとこれから先勝っていくのは難しいと感じました。一つ一つの技術をもう一度見つめなおし、さらに成長していけるよう練習を積んでいこうと思いました。

練習会場では普段練習できない日本のトップの選手とともに練習をしてもらい、とてもいい刺激を受けました。ほんとに貴重な時間を過ごすことができ良かったです。

引率していただいた宗片先生、植木先生をはじめとする今大会にかかわってくださった方々、一緒に戦ったチームメイトの皆さん、ほんとうにありがとうございました。この経験を糧にさらに上を目指し頑張っていきたいと思います。

今回はタイのWTTに参加させていただき貴重な経験をありがとうございました。私は海外の大会に出場する機会が少なく外国の選手と試合をすることがあまりないので、今回の大会で外国の選手と試合ができたことはとても良い経験になりました。

試合の方は序盤から状態が良く、程よい緊張感で試合に臨めたのが予選リーグで発揮できていたと思います。私は以前一度だけWTTに参加したことがありますが、そのときは決勝トーナメントですぐに負けてしまったので今回は決勝トーナメントで1勝でも多く勝つことが目標でした。決勝トーナメントの相手はレベルが高くて苦しい場面が何度もありましたがスタッフの方々やチームメイトの応援の後押しもあり乗り越えることができました。結果としてはベスト8で前回よりもランクアップしましたが、準々決勝もチャンスがあっただけに悔しさが残りました。ですが、自分の持っている力の最大を発揮できたと感じました。今回の大会で成長したと感じるところは1球1球の工夫ができるようになっていて、私の課題であったまともさがなくなっていたように思います。まだまだ、すべてを工夫することは難しいですが今回の経験を生かして1球1球全てに工夫を詰め込めるようにしていきます。

私は来年から大学生になり今よりもレベルが高くなり勝つことが難しくなると思います。今回の経験を生かして大学でも通用する選手になれるよう今後も努力して行きます。約1週間ありがとうございました。

上宮高等学校 3年 石山 浩貴

この度はWTTバンコクに参加させて頂きありがとうございました。私は、今大会が初めてのWTTで分からないことがたくさんありましたが、宗片先生や植木先生をはじめ日本のチームメイトにたくさん助けて頂き大変充実した1週間を過ごすことができました。

試合は予選リーグ初戦でスウェーデン代表のLukas選手との対戦でした。最初はとても緊張していましたが日本選手団の皆さんが声をかけてくださり落ち着いてプレーをすることができ3-0で勝つことができました。2試合目はシンガポール代表のWong選手との対戦でした。警戒していた選手でしたが徐々に自分のプレーをすることができ3-0で勝つことができました。周りの皆さんのおかげで予選リーグは1位通過することができ自分自身、大きな自信となりました。

翌日のトーナメント1回戦は香港代表の羅嘉傑選手との対戦でした。長身を生かした台上やラリーが強い選手でした。ベンチに入って頂いた植木先生の的確なアドバイスのおかげで色々な戦術を試してみました。試合でも気持ちでも最後まで攻め続けることができ3-0で勝つことができました。トーナメント2回戦は韓国代表のKwon選手との対戦でした。彼は韓国の中でもトップレベルの選手で私は向かっていく気持ちで1セット目を先取りましたが、2セット目からはKwon選手の緩急あるボールの質や、サーブ・レシーブの変化に対応することができなく1-3で負けてしまい結果はベスト16でした。

改めて自分の技術不足や実力不足、対応の遅さ、引き出しの無さ、反省点がたくさん見つかり悔しさが残りました。今回の反省や明確に感じたことを次の試合で生かせるよう、また1から練習や日々の生活を頑張りたいと思います。宗片先生をはじめ全国高体連関係者の皆さま、植木先生、日本のチームメイト、上宮高校の先生方、いつも周りで支えてくださる皆さまのおかげで約1週間充実した時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

遊学館高等学校 3年 坂田 陽哉

今回のタイのWTTに参加させて頂きありがとうございました。私は、今大会が初めての海外遠征で、最初は慣れないことが多かったのですが、宗片先生をはじめ植木監督、日本のチームメイトのおかげで良い経験をさせて頂きました。

試合の方は、予選リーグの1試合目は緊張して自分のプレーが全然できなかったのですが、試合が終わった後にチームメイトが声をかけてくれて、自分に自信を持ち2試合目に臨むことができました。結果はベスト16だったのですが私としてはバックハンドが成長したなと実感できる大会になりました。普段はあまりバックハンドを振らないのですが今大会では相手選手が強いということもあり、思い切ってバックハンドを振ることができました。しかし、8決定の試合では自分の弱さが出てしまったのかなと思います。相手は台北の選手で自分より実力の高い選手と分かっていた向か

っていく気持ちで試合に挑んだのですが、私の課題であるメンタルの弱さが出てしまいました。内容的には悪くなかったのですが全部のセットを逆転されてしまいました。普段の練習から甘えが出てしまっていたのでこの悔しさを忘れずにこれからの練習を頑張っていきたいです。

今後私は大学に進学し今よりもレベルの高い場所でプレーをします。今回の経験を生かしてこれからも全国、世界で活躍できる選手になりたいです。約1週間ありがとうございました。

四天王寺高等学校 3年 兼吉 優花

この度、WTT ユースコンテNDERバンコクに参加する機会をいただき、本当にありがとうございます。

初めての国際大会ということで、不安もありましたが、試合を重ねていくことで、環境にも慣れ楽しみながら試合に臨むことができました。また、以前一緒に合宿をした韓国や香港の選手たちと再会できたことがとても嬉しかったです。彼女たちと交流することで、自分の技術や人間力を向上させるためのヒントを得ることができました。卓球を通じて、さまざまな国の選手たちと交流できたことは、私にとってかけがえのない経験です。異なる文化やプレイスタイルに触れることで、自分の視野が広がり、卓球に対する理解も深まりました。

結果として、優勝することができたのは、支えてくださった先生や仲間たちのおかげです。みなさんのサポートがあったからこそ、ベストの状態で試合に臨むことができました。この経験を糧に、今後もさらなる成長を目指して努力していきたいと思います。

進徳女子高等学校 3年 小野 蒼彩

この度は WTT ユースコンテNDERバンコク 2024 に参加させていただきありがとうございました。私は公式の国際大会に出場するのが初めてでした。U17 ではベスト 16、U19 ではベスト 8 という、自分の中では満足のいかない結果でしたが、この大会を通して多くのことを学ぶことができました。

海外の選手と対戦して、私が1番感じたことは、サーブの違いです。日本人選手はサーブの種類が豊富で、全面のいろいろなコースに出してきたりするなど複雑なことが多いです。しかし、海外の選手は比較的ラリーに力を入れているように感じました。サーブはナックルが多く、コースも大体絞られていて、レシーブで迷うことが普段の試合より少ないように思いました。そこからのラリーでは、海外の選手は身長が高いため、台から少し離れてパワーのあるボールを打ってきました。私は、このようなラリーになったときに無理に強打をしようとしてミスをしてしまうことが多かったのもっと技術の種類を増やして、どんな緩急のあるボールにも対応できるようにすることが課題だと感じました。

また、日本とは違う気候や食文化、言語に対応できないといけないということも世界で戦う大変さということを知ることができました。今後もこの貴重な経験を活かしてもっと上を目指していきます。引率していただいた宗方先生、中島先生をはじめとする今大会に関わっていただいた皆様、一緒に戦ってくれたチームメイトに心より感謝いたします。ありがとうございました。

土佐女子高等学校 1年 石川 実鈴

今回は、WTT ユースコンテNDERバンコクに参加させていただきありがとうございました。そして団長や監督、たくさんのサポート本当にありがとうございました。私は、海外遠征に行くのが初めてで普段とは違う環境やボール、国籍の違う選手と試合することができ、また、今まで取ったことのないボールの質やサーブなどを体験することができ、とても貴重な経験になりました。

この大会で1番感じたことは、海外の選手は年齢関係なく体の大きい選手が多く、とにかくラリーが強くミスがほとんどないことです。上に行けば行くほどラリーの強い選手がたくさんいますが、そういう選手に勝つためには、コース取りをもっと厳しくしたり、逆をついたり、相手に十分な体勢で打たせないような工夫をして行かないといけないと思いました。また、緩急をつけてリズムの変化をつけたりすることも必要だと強く感じました。私はこの大会でラリーの強い選手に対し、いかにサーブ・レシーブで相手を崩せるか考えて試合に臨みましたが、サーブ3球目などあまり打てず得点に繋げることができませんでした。そのためサーブ・レシーブからの自分の得意パターンに繋がられるようにし

たいです。

今 回の試合は悔いの残る結果でしたが、ここで見つけた課題や学んだことをしっかり吸収し、この経験を活かして更に上を目指して頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

新潟産業大学附属高等学校 3年 山岸 唯菜

この度は、タイ WTT ユースコンデンターに参加させていただきありがとうございました。私は国際大会に出場することが初めてでした。U19 のみの出場でしたが3位に入ることができました。

今回の試合では、初戦からとても緊張してしまい自分らしいプレーが出来ませんでした。そんな中、アドバイザーで入って下さった先生方が前向きな言葉かけやアドバイスをして下さいのおかげで、決勝トーナメントからは自分らしいプレーをすることが出来ました。緊張した場面にどうしたら冷静にプレーすることが出来るのか今後考えていきたいです。海外の選手と試合をして感じたことは、的確な厳しいコース取りです。コース取りの部分ではミドルの攻め方が自分にはないものがありました。3 球目攻撃だけではなく、ラリーの中でも上手くミドルを混ぜられ苦しい展開でした。私もミドルの使い方について考えていきたいと思います。試合をするにつれ、次のボールの待ち方や、相手が何を嫌がっているかなどを考えながら試合を進めることが出来ました。私にとって大きな成長を得ることができた国際大会でした。この大会で得たことを更に上を目指して今後の練習に生かしていきたいと思います。

貴重な経験をさせてくださった団長、監督に感謝しています。ありがとうございました。